

## 「75年のストーリーズ Caux のマジック」

1947年：ピーター・ピーターセン

「鉄壁の防御が崩れた」

「私たちは、自分たちが盲目であったことに恥じ入った」

「当時は、犬でさえドイツ人の手からパンのかけらを貰うことを拒んだものです」と、戦後すぐの1947年にまだ戦時下の連合国側が、コーに来ることを許可した150人のドイツ人の一人、ピーター・ピーターセンは回想します。彼らは第二次世界大戦後、ドイツを出国できた最初のドイツ人でした。

驚いたことに、ピーターセンとその仲間たちは、敵対的ではなくドイツ語で歌を歌うフランス人のコーラスに迎えられました。「その時私たちは、非難されたときに自分達を防御することに長けた達人になっていました。しかし、ここでは私達に対して門戸が大きく開かれていました」。

ピーターセンは、最初はヒトラーユーゲント(青少年組織)として、後にナチスの特別学校で、そしてドイツ軍人として、それまでの生涯はずっと制服を着ていました。彼は終戦の2週間前に負傷し、戦後は英国軍により投獄されていました。21歳の彼は私服を持っておらず、彼には短くて大き過ぎる祖父のスーツを着てコーに到着しました。

「多くのドイツ人と同じように、私は自己憐憫と虚勢が入り混じった態度に終始していた」とピーターセンは後に語ります。彼と彼の友人たちは、フランス社会党婦人部長でフランス・レジスタンス(ナチスによるフランス占領と戦ったグループ)のイレヌ・ローが会議で演説することを知り、身構えました。「もし彼女がフランスの被ったすべてのことについて語るなら、私達もフランスについて少なからず言いたいことがある、と私達は言いました。」

ドイツ人が驚いたことに、イレヌ・ローはみんなの前でドイツ人への憎悪を謝罪しました。「それは予想外のことでした。私達の鉄壁の防御はすべて崩れ去りました。彼女の正直さと尊大な精神は、私達自身を見つめ直させました。私達は自分たちの盲目さを恥じたのです。」

長時間の議論と眠れない日々を経て、ピーターセンと彼の友人たちはイレヌ・ローに話しをしに行きました。「私達は、自分たちがどこで間違った方向に進み始めたのかを理解し始め、彼女に話しました。何故ならそれが癒しをもたらす唯一の方法でした。」

1948年から1951年にかけて、さらに4000人を超えるドイツ人がコーでの会議に出席しました。ピーターセンはMRAのチームの一員となり、その後5年間にわたってドイツ各地を回り、戦後のヨーロッパの和解と復興をもたらした心の架け橋を築きました。

1965年、ピーター・ピーターセンはドイツ連邦議会議員に選出されました。彼は政治家としての長いキャリアの中で、自らの過去を隠したり、ドイツによって苦しめられた人々との関係を癒すために必要な犠牲を惜しむことはありませんでした。

「過去を払拭するには2つの方法があります。」とピーターセンは言いました。「カーペットの下に一掃して隠すことはできますが、それではどこかに飛び出す危険性が常にあります。もうひとつは、正直であることです。私たちドイツ人が他国の人々と対等な立場で接することができたのは、このコーの持つ特別な雰囲気があったからです。」

メアリー・リーン



Peter Petersen (center) with Frank Buchman and Gabriel Marcel (1957)



Peter Petersen (right) speaking in Caux